

(学校運営協議会・報告様式)

令和5年度 第6回 鈴西小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年2月6日(火) 10:00～11:10

2 場 所 鈴西小学校 多目的ホール

3 委員長挨拶

- ・今年の正月は能登半島の地震から始まった。不安な始まりとなったが、家に来ていた孫が揺れた途端に机の下にもぐるのを見て、学校の避難訓練で学習したことが生かされていることを感じた。普段とは違うことが起きたときにどのように動けるか、子どもにとっても大人にとっても大切であることを考えさせられた。
- ・日本の経済力や技術力等は今、停滞から下降傾向にあると感じる。学校では、これまでのような基礎・基本の力の定着だけでなく、変化する社会に対応する力を子どもにつけていかなければならない。地域の力も借りながら子どもたちの人間力の育成をしていきたい。
- ・今年度最後の学校運営協議会。1年間の反省をして、来年度に向けてより良い学校運営ができるような話し合いをお願いしたい。

4 学校長挨拶

- ・1月24日(水)の雪について。昨年度と同じ時期、同じ曜日の雪となった。授業参観やPTA学年委員決め等が予定通りに実施できるか心配していたが、無事行うことができた。当日は朝6時に積雪の状況を見て、始業時刻について中学校区の校長で相談した。昨年のおよそ半分の積雪で、鈴西小は通常通りの始業ができると判断した。椿小学校区は雪が深く、椿小と鈴峰中は2時間遅れの始業にした。
- ・感染症は相変わらずで、インフルエンザも新型コロナも何人か感染している。今は学級閉鎖の心配をするほどではないが、11月下旬から1月は感染による欠席者が多く、そうした中でどう学校経営していくかが課題となっている。
- ・本日の協議事項の学校関係者評価では、来年度に向けてのご意見をお願いしたい。この運営協議会で意見をいただいたことをきっかけに改善されることがある(中学校区合同の運営協議会に管理職だけでなく担任をしている教師が出席するようになったこと等)。忌憚のないご意見をいただければと思う。

5 協議事項

(1) 学校関係者評価書について

【学力向上】

- ・ 図書室の本の入れ替えは行われているか。
⇒ 民間から週1回派遣される図書館巡回指導員が蔵書整理をし、古い本を廃棄したり新しい本を導入したりしている。
- ・ 「こういう本が読みたい」というアンケートを児童にとることはあるか。希望をとれば、進んで読書をするようになるのではないか。

- ⇒ 図書室の本は基準以上の冊数をそろえている。教師による選書は行っているが、児童にアンケートは取っていない。担当に声をかけさせていただく。
- ・ 本を手にとれる環境が大事。図書室の本は充実しているようだが、学級文庫はどうなっているか。
- ⇒ 廃棄本の中でもまだ使えるものを学級文庫に入れる等して、児童がたくさんの本を読めるようにしている。適正数としては足りている。
- ・ 身内に石川県で教員をしている者がいる。地震により平常の生活ができなくなり、学校もなかなか再開せず、勉強もできない状況にあった。そうした中で、自分から勉強したいという気持ちになった児童が出てきて、苦手な教科をどうやったら好きになるのかという質問もあったとのこと。鈴西小学校の子どもたちも、苦手な教科があると思う。そういう質問があったときに、先生たちがどういう言葉を返すかが大事。
- ⇒ 担任との間で、そういう話も出てくると思う。私（校長）も算数の授業に入って個別に支援を行ったり、休み時間に校長室に来る児童の勉強を見たりしている。ケースバイケースで対応している。どの子どもできるようになる学習指導をしていきたいと考えている。
- ・ 主要5教科も大切だが、大人になって社会に出て、生きていく上で大切なことも学ばせたい。お金やスマートフォンの使い方等、高学年の授業で扱ってもらっているが、継続して取り組んでもらいたい。
- ⇒ 主権者教育の推進が小学校でも求められている。租税教室やスマートフォンの使い方教室などは、どの学校でも行われている。先日、「株式会社の仕組み」についての出前授業を6年生で行ったが、こうした授業もどこまでさせていくのがいいのか、試行錯誤・取捨選択しながら進めている。
- 社会で何か問題が起こるたびに「〇〇教育を行う」という指示が下りてくるが、実際には学校では様々な教育が行われている。鈴西小学校ではサーチ学習で、他教科では計り知れないものを学び、非認知能力の育成に取り組んでいる。
- ・ 5教科も大切だが、生活科や総合的な学習の時間がとても大切。お金の学習についての意見が出されたが、低学年の国語で「お店やさんごっこ」という学習があり、商品や価格を自分たちで考え決めてお店を開く学習活動をしている。特別にこれといったものではなくても、日々の学習活動の中で行われているものがある。お茶について調べ学習を行ったら、その販売はどのようになっているのか調べることもできる。

【長欠減少】

- ・ 鈴西小学校に今、不登校の児童はいるか。
- ⇒ 欠席日数が30日を超えた児童はいる。「ずっと登校できていない」という児童はいない。
- ・ 中学校で、3年間一度も登校していない生徒がいるという話を聞いた。
- ⇒ この校区では、小学校では学校に通っていた子が中学校に入学してから不登校になるケースもあり、どう解決していくか課題として話し合っている。
- ・ 大事に育てられ、学校でも仲良く過ごしている子が多い。それはよいことだが、たくさんの子どもの中で揉まれる経験が少ない。中学校に進学したり、他所へ行ったりしたときのギャップが大きい。いろいろな学校との交流機会が必要なのではないか。
- ⇒ 交流機会を用意したいのは山々だが、予算がない。一昨年、校区の6年生が鈴峰中学校に集まって交流したが、継続的な実施は予算的に難しい。昨年度か

ら、中学校入学後の不安を少しでも取り除くために、校区4つの小学校と中学校をオンラインでつないで説明会を行っている。いろいろな形で交流させたいが、移動手段がない。

- ・ 教育委員会にバスはないのか。
- ⇒ 市にバスはあるが、運転手の確保が難しい。大型免許が必要。
- ・ 社会福祉協議会に運転手付きで使えるバスがあるので、利用できないか。
- ⇒ 確認する。
- ・ 鈴峰中でもいろいろな学校の子と一緒にいるし、白鳥中だと9割が初めて会う子という状況になり、最初は戸惑う。交流があるとそれが緩和される。コミュニケーション力を育むためにも交流は大事。
- ⇒ 非認知能力のアンケートの結果で、本校児童の意識は「社会性が高い」という結果が出ている。実際に新しい友達と対面したときにどうかというのは別だが、意識としてはそう思っている。

【地域連携】

- ・ 学校だよりをいつも読ませてもらっている。とても丁寧に情報発信をしてくれているので継続してほしい。家で学校のことをあまり話さない子もいるので、学校だよりをきっかけにして親子の会話ができるといいと思う。
- ・ 社会性、コミュニケーション能力を育てる上で、地域との連携、大人との関わりの方をつくっていくことも大事。
- ・ 学校運営協議会の意義について。「学校からの報告ばかりでなく、これからどう学校を運営していくかを話し合うことが大事」という話を、以前教育委員会の方にしてもらったことを思い出した。
- ・ 学校運営協議会を、もっと有意義な場にしていきたい。自由な発言ができることが大事。考えてこんでしまうと意見が出せなくなり、いい運営委員会にならない。
- ・ 地域の祭りは、行われているか。
- ・ それぞれの地区で、行われている。
- ・ なくなっている地区もある。
- ・ 祭りのような行事でつながっていくことも大事。
- ・ 老人会と子ども会をつなぐのも面白い。鞠鹿野では老人会の方に炊き出しをしてもらって子どもたちが食べる等、老人会と子ども会合同の企画を2回ほどした。
- ・ 地域で、子どもも大人も関わる行事をしていきたい。
- ・ 子どもたちが「地元っていいな」と思えるようにしていきたい。大人になって地元を離れていくのではなく、地元に残りたいと考えられるように。

【教職員の働き方改革】

- ・ スクールサポートスタッフの活用や、会議のペーパーレス化等で、雑用的な業務が減っている。いい意味での効率化が進んでいる。それにより、先生たちにゆとりができ、子どもたちに向き合う時間が増えることは、とても良いこと。教材研究だけでなく、心身をリフレッシュしたり、本を読んだり、さまざまな体験を通して感性を磨いたりすることも、教師力を高めることにつながる。
- ・ 「放課後、職員室に戻れない」というのではダメ。職員室で先生たちのざっくばらんな会話の中で、さまざまなことが解決されていく。
- ⇒ 児童へのアンケートや調査も多いが、フォーム回答により手間が減った。時

間的にゆとりが生まれる。

- ・ ペーパーレス化はとても良い。自治会の会議でもペーパーレス化を進めて、資料を作る人も読む人も、管理する面でも楽になった。

(2) 令和6年度見込み児童数(2月6日現在)について

【教頭より説明】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	ひまわりA	ひまわりB
人数	24	24	23	22	31	30	4	4

6 情報交換・その他

(1) 来年度の委員について

- ・ 来年度も引き続き参加のお願いをした。

(2) サーチ学習の成果発表会について

- ・ 2月20日(火) 10:50~11:35 2階教室

(3) 卒業証書授与式のご案内(別紙)

(4) 会計監査(3月27日(水) 10:00~)のお願い

- ・ 筒井委員, 伊藤委員にお願いした。

(5) 来年度の学校運営協議会について【教頭より説明】

年間6回の予定

校内 5/7(火), 7/9(火), 10/8(火), 12/23(月), 2/4(火)

中学校区合同【第4回】(未定)

7 教育委員会から

- ・ 学校運営協議会は、子どもたちの成長について、学校関係者としてどうしたらいいか話し合う場として開催している。今日の運営協議会で、学校間交流をどうしたらいいかの意見が多く出された。例えば来年度、校区が抱える課題として継続的に話し合うのも良い。学校の課題を話し合っていくことで「協働型」のコミュニケーションスクールになっていく。
- ・ 地域連携について、地域行事についての話が多く出たが、どうしたら人と人とがつながるのかを考えていきたい。コロナ禍でやめた行事をもう一度やることにしたり、リニューアルしたりするのはなかなか難しいが、子どもの成長のために必要なこととして考え、進めたい。
- ・ たくさんの意見を出していただき、とてもよい運営協議会になった。